

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都港区浜松町1-6-7プラザ神明1-3F
園名	港区立神明保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の探求

<テーマの設定理由>

- ・ 生活の音や楽器の音の違いに気づき、それを自分なりに感じ取る経験をすること感性や表現力の育ちにつなげる
- ・ 身近な音に耳を傾け、それを身体や言葉、楽器などで自由に表現することを通して音への興味関心を高める

上記2点から音の探求というテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

2025年6月～2026年1月の期間で行う。

専門の講師を月一回招致して、園内にある様々な楽器の音や自然の中で感じる音、日常にあふれる音などの「音の不思議」について触れていく。音と振動、音の高低で音について探求していき、絵本に出てくる音は日常のどんな場面で出てくるか同じ音を探す。子どもたちが音に触れ、感じたものを楽器作りで活かし、表現する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・どんな音が存在するのか知るために楽器(木琴・カボン)やアンプ、玩具を用意する
- ・楽器だけでなく、音は存在することを知らるために絵本を用意する
- ・子どもたちが思いのまま楽器作りができるよう材料を準備する
- ・耳でよく聞き、子どもたちの感じたものを表現できるようにできるだけ集中できる空間を用意する

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

身近な音を感じられるよう何気なく聞いている音に耳を傾け、感じられるようにする。「音」とは楽器で鳴らすものだけでなく、毎日の中で聞いている音も一つの音だと気づき、楽しさを味わうことで興味を持ってもらえるようにする。

探究活動の様子：

月に1回専門講師を招致し、日常生活や絵本の中から音を探したり、様々な楽器に触れ音の出し方や変化に気付いたりする。あまり日常の中の聞こえてくる音に気付いていない様子だったが、耳を澄ますことで聞こえてくる音にとっても楽しんでた姿があった。日常から聞こえてくる音に気付いた後に、楽器に触れることでいつもとは違う感じ方をしていた。木琴やカボン等の楽器を鳴らすと「ぶるぶるしてる！」と楽器が振動していることを知り、楽器作りではタンバリン作りを楽しんで取り組んでいた。1人ひとりが楽器を作ると同じ楽器なんて一つもなく、自分の楽器で音楽を楽しんでいた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

子どもたちが耳を澄ませている姿はとても集中していて、風が吹いただけで教えてくれたり友だちの足が床に触れ鳴った小さい音でも聞こえたりしたほど興味を持っていた。子どもたち自身が何

気なく聞こえている音を「音」として感じられるようになった。

【4歳児実施分】

問いを考える：

3歳児クラス同様身近な音を感じられるよう何気なく聞いている音に耳を傾け、感じられるようにする。「音」とは楽器で鳴らすものだけでなく、毎日の中で聞いている音も一つの音だと気づき、音を絵で表現してみたり音を聞いて風景を想像してみたりして楽しさを味わうことでより深い興味関心を持ってもらえるようにする。

探究活動の様子：

耳を澄まして聞く前にどんな音があるか子どもたちに聞く場面では予想通りの答えが返ってきていたが、実際に聞いてみると様々な音に気づき水槽のポンプ音やレゴブロックの音などの細かい音まで澄まして聞いていた。音の仕組みに知ったあと、日常の擬音を絵で表現する場面では、色や形、線や点など表現がそれぞれ違っていた。同じ丸でも大きさが違っていたり、線の長さや波の大きさも違っていたりと同じ表現をしている子がいなかった。子どもたちがその違いを楽しむ姿も見られた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

3歳児クラス同様、何気なく聞こえる音に気づき「音」として感じる事ができた後は今まで使っていた楽器にもいつもとは違う聞き方や感じ方をしていた。また、3歳児クラスとは違った音の表現方法をしたことで子どもたちの感じ方がこんなにも違うことに気付いた保育士もいた。子どもたち自身も友だちと感じ方が違うことに対して興味を持っていた姿があった。

【5歳児実施分】

問いを考える：

3・4歳児クラス同様身近な音を感じられるよう何気なく聞いている音に耳を傾け、感じられるようにする。「音」とは楽器で鳴らすものだけでなく、毎日の中で聞いている音も一つの音だと気づき、音を絵で表現してみたり音を聞いて風景を想像してみたりして楽しさを味わうことでより深い興味関心を持ってもらえるようにする。

探究活動の様子：

日常の音に耳を澄まして聞いてみた時に、たくさんの音を聞き取れる子がとても多く外の動物や電車、室内の保育士や友だちの動作音にとっても敏感になり気付きが多かった。音がと振動のつながりには、興味を持っている子が多く楽器をよく観察していた。音を絵で表現する時には感じたまま伸び伸びと表現する子が多かったが、擬音を身近なもので表現する時には難しさを感じている子が多い印象だった。楽器製作では、5歳児だからこそできる設計図から始めることで、より特別感があり真剣に取り組んでいた。製作中にも、音を鳴らしてみたり、音の調整をしてみたり興味を持って製作していた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもたちの気付きが多い分、保育士も子どもたちに対しての発見や気付きが多いなと感じた。言葉での表現が豊かな5歳児クラスは感じた音が子ども一人ひとり違っていて保育士も楽しみながら子どもたちと探求できた。学年別に進め方はいっしょだが、進め方が異なることで子どもたちの感じ方に保育士が気付くことができ良かった。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



4歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



5歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都港区浜松町 1-6-7 プラザ神明 1-3F
園名	港区立神明保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界の探究

<テーマの設定理由>

- ① 港区という多様な国籍の方に触れる機会が多いこと
- ② 大使館が多く今回の探究を通して自分が住む地域により一層興味をもてる

上記2点から世界の探究というテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

2025年6月～2026年1月の期間で行う。

外国人講師による様々な国の特徴（動物・食事・スポーツ・名産等々）を知る回と、世界に目を向けて自分たちの住む日本との違いを感じることができる回とにわけて実施する。後述の回ではグループごとに活動を行う事をメインとし、国旗や国・大陸の形に興味をもてるように展開する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもたちが耳と目で世界について知ることができるような教材を準備する※写真添付
- ・自分たちで国の特徴を調べることができるよう様々なカテゴリの世界図鑑の準備
- ・より身近に地球に興味をもてるよう地球儀型ビーチボールを準備
- ・世界の形を知る事ができるよう世界地図パズルと世界地図塗り絵の準備

保育士が活動を進める中で全体で探究のパートからグループで探究するパートに分かれるため、通常保育時より多くの保育士を配置し、各グループごとに保育士が探究心を高められるような声掛けを行えるようにした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：どんな国があるかな？という問いに対して自分の知っている食べ物や動物がでてくる事で世界に興味を向ける事ができるようにする。知っているものでも名称が違う不思議や面白さを感じながら世界に親しみをもつ。保育者は日本との違いに気付く事ができるような声掛けをメインで行い、子どもの気付きに寄り添う事で活動を展開していく。

探究活動の様子：

外国人講師が展開する場面では真剣に話を聞く姿が見られ、ネイティブな発音を真似して日本語との違いを発見した様子が見られた。保育士が展開する場面では問いかけ自体が理解できることもあり「みんなが住んでる日本はどこかな？」の問いかけに対してグループごとに「どんな形かな？」と話ながら活動する姿が見られた。地球儀ボールを見ながら色々な形がある事に気付いたり、知っているものがでる度に「しってるー！」と喜んだりする姿が見られた。身近に感じることができる「食べ物」についての活動を多く行ったが、普段自分たちが食べているものを違う国の人たちも食べてる事を知り、不思議に思いながらも全員が興味を持っている姿がみられた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

予想以上に色々な国を知っている子が多かった。0の状態から世界の探究をスタートする

予定だったが、投げかけに対して「どうかな？」と考える間もなく答えてしまう子がいるため展開の仕方に工夫が必要だと感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：世界にはどんな国があるかな？どこにあるか探してみよう！をきっかけにして3歳児同様興味が湧きやすい題材を選択し、生活の中で世界を探究する流れにつながるようにする。後期では前期で探究した国と新しく探究する国との比較を行いながら違いを学んだり、同じ部分もあるんだと感じたり、普段慣れ親しんでいるものがどこの国のものなのか等も分かるようにすくわくの時間以外でも職員から声掛けを行うようにする。

探究活動の様子：

外国人講師が展開する活動では世界の様々な物に興味を持ち、面白い発音を何度も繰り返す等、事物以外の部分にも興味を拡げていた。保育士が展開する際は問いかけの意味が理解できる分「この〇〇のなまえは何かな？」という問いかけに対して自分の知っている国や知っている場所がでると喜び、新たな発見についても同じくらいの熱量で喜ぶ姿が見られた。クリスマスシーズンに世界のごちそうについて「どこの国のごちそうかな？」と問いかけると「これ食べたことある！」「この料理は〇〇のお肉なんだ！」と興味津々で「来月は何を教えてくれるのかな？」と楽しみにする姿が見られた。世界パズルを用いた大陸の話や地球ボールを使った活動についてもグループで協力し合って進める姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

年齢が上がると知っている事も多く、もっと知りたいという子どもの思いが言葉だけでなく行動でも伝わってきた。また、友達同士で「これ知ってる？」「これは〇〇だよ」と話をしながら活動を展開していて、保育士の声掛けがなくてもグループごとに活動が展開していた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

「世界にはどんな国があるかな？」「ほかの国の人たちはどんなものを食べているかな？」

「どんなスポーツが人気かな？」具体例を出す事で子どもたちが自分たちで「これはどうだろう？」と思えるような問いかけを行う。実際に海外に行った事がある子が多いので、行ったことがある国の話をしてもらいこども目線で世界のどういうところに興味をもっているのかを探る。

探究活動の様子：

「これ知ってる」という言葉がたくさん出ていたが、日本での違いを比較する際は真剣な表情になって比較する姿が見られた。もともと知識がある子が多かった事もあり、知っている事を伝える姿が見られたが、外国人講師の発音の違い等を耳にする事で微妙な発音の違いを発見したり、新たな発見がある度に「すごいね！」「にほんと一緒だね！」と喜び合う姿が見られた。世界の形が色々ある事を知り、他の事物に見立てて面白がったり、グループ内で共感したりする様子が見られた。国旗についての活動では色や図形のカテゴリ分けを自分たちで行ったり、大陸ごとに国の数の違いを発見したりする中で、一つの発見が次の発見に自然と繋がり、活動が展開していった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

はじめての取り組みだったため保育士がある程度順序だてて活動を展開したが、子どもの探究心が予想以上に拡がりを見せたためもう少し早い段階で各グループごとに進められるように展開した方が良かった。

子どもたちの「○○も知りたい」がたくさん聞くことができグループごとにも違いがみられてよい活動だった。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。



(HP などで公開する可能性があります)

ますの



で、公開可



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。

(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可



能なものを使用く



ださい。)



5 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。



(HP などで公開する可能性があります)



で、公開可能なものを使用してください。)

